

『とうがらし』栽培マニュアル

1. 品種特性

品 種: 『鷹の爪』とうがらし

辛味が強く、栽培し易く早生豊産種。

節間短く、着果良好。

果形は円錐型、長さ 3 cm位、乾燥させて調味料に使用する。

2. 作 型

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培 体系				←→ 播種		←→ 定植				←→ 収穫・乾燥		

3. 育 苗

発芽適温...日中 25～30 夜間 18～20 の変温管理で発芽を揃える。

128 穴セルトレー等を利用して播種。播種後は十分灌水し、新聞紙で覆い、さらに軽く灌水する。発芽したら新聞紙を取り除く。

鉢上げ...本葉 1.5～2.0 葉時(播種後 20 日位)に 10.5 cmか 12 cmポットに移植する。

灌水は午前中に実施し、夕方ポットの表面が乾いている状態にする(少量多回数)。

本葉 4～5 枚頃、竹べら等で中耕し、軽く断根し細根の発生を促す。

とうがらしは、浅根性で根も細いため、通気性の良い土壌を好む。そのため、過度の灌水とならないよう留意する(生育期間中)。

4. 定 植

定植適期苗...本葉 7～8 枚程度(育苗 45～50 日程度)

ナス科との連作は控える。定植時、地温 18 以上を確保するため、定植の 10 日以上前にグリーンマルチ(135 cm巾)を施用する。

畝幅 135 cm 株間 40 cm 千鳥 2 条植え

ケラ・ネキリムシの発生が懸念される圃場は、ダイアジノン粒 5 を 4～6kg/10^ア全面散布し耕起する。

定植時、アドマイヤー1 粒剤 1 g/株植え穴土壌混和し定植する。

5. 施肥

10^{ポツ}当たり

	肥料名	施肥料(現物)	摘要
基肥	完熟堆肥	2000kg	
	CDU 燐加安 S682	80kg	
	オールエイト	80kg	
	BM フミン	40kg	
	苦土重焼燐	20kg	
追肥	はつらつくん	20kg	

適正 PH6.0～6.5。 酸度矯正はセルカ等。

6. 誘引

風による倒伏防止のために、うねの両側に支柱を立て、高さ 50 cm位の位置にひも等を張り、枝の垂れ下がりを防ぐ。また、フラワーネットを活用しても良い。

7. 整枝

定植後、整枝は必要とせず、放任とする。

8. 収穫

着色 80～90%(開花後 65 日後位)。結実後 40 日後頃。

地際から剪定ばさみや鎌等で切り取り、収穫する。

収穫後、ハウスや軒先等の風通しの良い場所で、架干しをする(約 1 ヶ月)。

9. 出荷

出荷先の規格に合わせて、出荷調整を行なう。